

7 砂浜の生き物

砂浜の生き物をしらべてみよう！

●牛橋河口付近のウミネコの群れ



■解説資料

◆砂浜の生き物

<鳥類>

●「留鳥」

一年を通して見られる鳥です。仙台湾南部海岸で一年中見られる代表的な「留鳥」は、ウミネコです。身体が大きく「ミーオ」とネコのような声で鳴きます。

●「旅鳥」

「渡り」の途中にやってくる鳥です。春と秋に「渡り」の途中で休息するシギ・チドリの群れが砂浜にやってきます。仙台湾南部海岸にやってくる主な「旅鳥」は、トウネン、ハマシギ、オオソリハシギなどです。

●「夏鳥」

春に日本に渡ってきてヒナをそだて、秋になると南に渡る鳥です。仙台湾南部海岸にやってくる主な「夏鳥」はツバメ、コアジサシなどです。コアジサシは最近、少なくなってきており、絶滅危惧種に指定されています。

●「冬鳥」

秋に日本に渡ってきて、春になると北に渡る鳥です。仙台湾南部海岸にやってくる主な「冬鳥」はカモ類、カモメなどです。

<昆虫類>

●ヤマトバッタ

体長3～4cmで、灰色から淡灰褐色で黒い紋があります。環境の良い海辺に生息するバッタです。

●カワラハンミョウ

体長1.5～2cmです。海岸の砂丘や大きな河川の河原に生息しています。日中、乾燥した砂地で活動し、地表を素早く歩き回ります。絶滅危惧種に指定されています。

●アリジゴク

体長1cmほどのウスバカゲロウの幼虫です。クロマツ林の周辺の砂地にすり鉢状の巣穴を作っています。子どもにも比較的に見つけやすい種です。

■波打ち際の生き物調べ資料

◆生き物調べの方法

●砂の中：堤防からの距離を測り、穴を掘ります。

- ・水際からの距離と環境が異なる場所を選んで砂を掘ります。
- ・堤防からの距離を目安に、深さの違いも記録して採取・観察することが重要です。

●必要な道具：スコップ、熊手、ザルなど

◆観察対象として最適な生き物

●ヒメハマトビムシ

砂浜に打ち上げられた海藻やごみを持ち上げると、ぴょんぴょんと跳ねるヒメハマトビムシを見つけることができます。体長8mmくらいの小さな生き物ですが、海岸に打ち上げられた海藻などの有機物を食べてくれる非常に重要な役割を担っています。

テーマ 7 砂浜の生き物

■砂浜の生き物

◆鳥類

●ウミネコ



●トウネン



●オオソリハシシギ



●ハマシギ



●コアジサシ ※絶滅危惧種

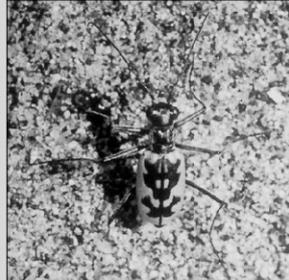


◆昆虫

●ヤマトバツタ



●カワラハンミョウ ※絶滅危惧種



◆底生生物

●ヒメハマトビムシ



◆貝類

●ホタルガイ



●ツメタガイ



●コタマガイ



●ホッキガイ



■海の豆知識—海藻と海草の違い

海藻や海草は、陸上の草と同様に太陽エネルギーを使って光合成を行っている植物の仲間です。海藻はワカメ、コンブなど胞子によって繁殖する植物（藻類）で、食べられる種類が多く、一方、海草は花を咲かせ、種子によって繁殖する植物で、食べられる種類は多くありません。